

外国語学部 FD 委員会では、(1) 2020 年度前期末に Teams 上に立ち上げた「L 部遠隔授業事例紹介・情報共有」を引き続き活用することで授業の改善と工夫に配慮しつつ、(2) 後期には F D フォーラムをオンライン開催した。その内容について詳細を報告する。

(1) Team 「L 部遠隔授業事例紹介・情報共有」の継続的管理運営

学部遠隔授業 WG 代表教員と FD 委員が中心となり、2020 年 8 月に立ち上げたチームの中の 8 つのチャンネルにおいて、非常勤講師各位から寄せられた質問や相談の受付とそれらに対する応答・説明を年間通じて行った。English Channel も広く活用されている。

ICT ツールの操作方法に関する問い合わせに対応していた教務課のヘルプデスクが 2021 年度前期末で終了したため、「外国語学部オンラインサポートチーム」(FD 委員を含む専任教員 4 名) が専用メールを設置し、引き続き常時、トラブル相談の受付や情報提供に当たってくださっていることに感謝申し上げたい。

(2) FD フォーラム「国際学部における新しい海外での学び」の実施

日時：2021 年 10 月 26 日 (火) 教授会終了後 18 時～19 時半

会場：オンライン (Zoom)

講師：外部講師 2 名

- ・認定 NPO 法人アクセスー共生社会をめざす地球市民の会事務局長 野田沙良氏
- ・東京大学グローバル地域研究機構ラテンアメリカ研究センター教授 受田宏之氏

出席者：31 名

目的と概要：2022 年度の学部改組を控え、語学研修に終始しない主体的で深い学びを短期留学のかたちでいかに実践するかを探るため、フィリピンでのスタディーツアーを行う認定 NPO 法人の事務局長兼実務担当者と、自身の研究フィールドであるメキシコでの研修を企画・引率する研究者から活動内容と成果を拝聴した。両氏が 2019 年度から実施されているオンライン研修のご紹介もあり、おおいに参考になった。

成果：事後アンケートには多くの関心とコメントが寄せられ、これから始まる国際学部の教育と海外体験学習との接点と意義を考える良い機会であった。短期間であっても豊かな国際研修・共修をいかにして学生に提供できるかを検討するための嚆矢となった。

以下に、講師・受田氏の許諾を得て、講演のスライドの一部を掲載させていただく。

**メキシコオンライン研修
(2020年度Aセメ)
「コロナ禍のメキシコに学ぶ」**

<http://www.jp.lainac.c.u-tokyo.ac.jp/students/studyabroad>

- 受講生：10名
- 交流先：以下の5カ所とオンラインで交流
 - EDNICA (ストリートチルドレンの支援を行うNGO)
 - 先住民移住者コミュニティ
 - メキシコで働く若手日本人6人との意見交換会
 - UNAM (2日間)
 - トラスカラ州の有機農家 (Jaime Gaspar García氏)



注：UNAM は、東京大学の提携校である「メキシコ国立自治大学」を指す。

オンライン研修の利点

- 交流のハードル低下：
 - 移動費等がうくため、交流の可能性が拡大。ex. メキシコで活躍する6名の若手日本人（3名は大使館勤務、3名は日系企業）と学生が自由に語り合う企画。
- オンライン関連技術の利用：若い世代は得意
 - PADLETにお互いの情報をあらかじめ書き込む（UNAM日本語履修生との交流）。
 - 互いに作成したビデオを鑑賞（有機農家との交流、UNAMとの交流）
 - 先住民移住者と支援者の制作する民芸品紹介HPを英語と日本語に翻訳（先住民移住者との交流）

オンライン研修の欠点と課題

- 時差：14ないし15時間の時差 → 日本の早朝に短時間の交流
- ネット環境の不備：一部日本の学生、特にメキシコ側（農村など）
- 若い世代には、ZOOMを通じた研修という枠組がもはや新鮮ではなくなっている。
- 身体性の欠如：メキシコの多彩な風土を肌で感じとれない、ストリートチルドレンと彼らの支援者と直に触れ合い議論できない、農家自慢の素材を使ったローカルな料理を堪能できない → 受講生は10名にとどまる（うちキャンセルされた研修からの継続者は4名）
- 課題：VR技術の活用、国内研修との結合（ex. 日本の他大との交流、メキシコ関連施設の訪問）